

## 第144回簿記検定試験 3級 出題の意図・講評

### [第1問]

#### (出題の意図)

基本的な仕訳を問う問題です。落ち着いて問題文の取引を読めば難しくないレベルですので、完答が望まれます。

1. 本問は単純な売上戻りの処理を問う問題ですが、商品管理（商品有高帳）の観点から、返品と値引きの違いについても理解しておく必要があります。
2. 普通預金、当座預金、当座借越契約、定期預金を混同せず仕訳を起こすことができるかがポイントです。特に当座借越契約については限度額を示していますが、契約だけで資産・負債の変動がないことに留意する必要があります。
3. 消耗品については2つの処理方法があるため、指定された勘定科目からどちらの方法を用いているのかを判断する必要があります。
4. 取引先に対する債権の回収にあたっては、同じ取引先に対する債務と相殺することがあります。見慣れない問題だったかと思われそうですが、問題文の指示どおりに解けば難しくない問題です。
5. 手形の振り出しと郵送代金の支払いの2つがあるため、それぞれ個別に仕訳を起こせば解答を導くことができます。

#### (講評)

取引の文章が短く、指定の勘定科目の数も少なかったことから、全般的によくできていました。しかし、3. および4. では指定の勘定科目に含まれていない消耗品勘定、貸倒引当金勘定を用いた誤答が目立ったことが非常に残念です。また、5. では通信費の相手勘定科目を買掛金としている誤答も目立ちました。いずれも問題文をしっかりと読めば防げる間違いですので、落ち着いて解答することが望まれます。

### [第2問]

#### (出題の意図)

本問は、備品の取得および減価償却に関連して、減価償却備品勘定および備品減価償却累計額勘定を完成させる問題です。備品取得時の勘定記入はもちろんのこと、月割計算を含む減価償却費および減価償却累計額に関する勘定記入を

正確に理解しているかを問うています。資料から、必要な情報を的確に把握し、適切に勘定記入に結びつけることが必要になります。

まず資料および勘定に記された日付から、前期末までにどの備品を保有しており、どれだけの減価償却が行われてきたかを求めます。これにより各勘定における前期繰越の金額が求められます。次に資料を適切に判断し、当期に取得した備品について勘定記入を行います。そして最後に、期中取得の備品を含めた当期の減価償却費を計算します。

#### (講評)

本問は、減価償却に関する勘定記入の基本的問題と言えますが、思いの外正答率が低くなりました。備品勘定の借方への記入に関しては正答率が高かったのですが、過年度の減価償却累計額、当期の減価償却額の貸方記入で誤答が多く見られました。残存価額が取得原価の10%のもの、0%のものの双方が含まれていること、月割計算が必要なことの2点が原因と考えられます。いずれにしても基本的な問題と言えますので、混同せずに正確に計算する能力を培うことが重要です。

### [第3問]

#### (出題の意図)

1ヶ月分の取引から合計試算表を作成できるかを問う問題です。いままで何度も出題されている形式であり、取引の量も多くありません。ただし、普通預金など特定の勘定科目は取引数が多いため、正確に集計を行うことができるかどうかポイントとなります。

個々の取引の仕訳では、13日および17日の出張旅費に注意が必要です。いままでの出題では、概算払いをした後に残額を精算する流れでしたが、本問では残額ではなく不足額が生じていますので、追加支払いの処理が必要になります。なお、出張旅費については精算の手間を省くために、先に概算払いをするのではなく、出張する従業員に先に旅費の支払いをさせたうえで後日に企業から従業員に対して実費を支払う方式もあります。また、従業員への実費の支払いにあたっては給料と一緒に振り込むことも行われています。そこで、概算払い→精算という流れの処理を暗記するのではなく、実際の場面を思い浮かべながら処理することが望まれます。

#### (講評)

出題の意図でも触れた旅費交通費および仮払金、取引数の多い現金および普

通預金の間違いが多く見受けられました。

また、10月末の借方・貸方合計ではなく、10月中の仕訳の集計結果を答えている間違いも見受けられました。出題・解答の便宜上、過去には月中取引の集計欄も設けた出題もありますが、試算表の役割（貸借の一致の確認、すべての勘定の金額を一覧して経営状況を確認）を理解していれば月中取引のみを集計するという間違いはしないはずです。そこで、問題の解き方だけではなく、根本的な表の作成目的も学習することが望まれます。

#### **【第4問】**

##### **（出題の意図）**

本問は、入金伝票・出金伝票・振替伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成し、現金勘定に転記する問題であり、伝票の集計→仕訳日計表の作成→転記の流れを問うものです。（1）は各伝票を集計して、各勘定の借方合計と貸方合計を求め、仕訳日計表を作成し、それにもとづき現金勘定に合計転記できるかを問うています。（2）は10月31日における札幌商店に対する売掛金の残高に、11月1日の同店に対する売掛金の変動を加減して求められるかを問いました。

##### **（講評）**

初出題の問題でしたが、全体としてはよくできており、正答率も高かったです。目立った間違いとしては、(2)の札幌商店に対する売掛金残高を求める際に、10月31日現在の残高¥49,000を足し忘れているという点です。問題文を注意深く読むようにしてください。

本問では、元丁欄と仕丁欄は省略されていましたが、これらの欄がある場合の記入方法や補助元帳(売掛金元帳、買掛金元帳等)への個別転記方法についても学習しておいてください。

#### **【第5問】**

##### **（出題の意図）**

本問は、貸借対照表と損益計算書の作成を行う問題であり、決算に関する基本的な知識や処理能力を問うものです。過去に何度も出題された基本的な項目を中心に出题しましたので、確実に処理できることが望まれます。主な注意点は、次のとおりです。

① 資料3については、買掛金と未払金の相違を理解する必要があります。

- ② 資料 4 の貸倒引当金の設定は、資料 2 を反映させた売掛金の修正後残高に対して行います。
- ③ 貸倒引当金は売掛金から、備品減価償却累計額は備品から控除する形式で表示します。

財務諸表の作成を苦手とする受験者も散見されますが、3級受験者は精算表の作成のみならず、企業活動の結果である財務諸表の作成についても理解を深めておく必要があります。

#### (講評)

第 141 回と第 142 回で財務諸表作成の問題が出題されたこともあり、十分に対策して試験に臨んだと思われる答案が多かったと思います。本問において間違いが多かった箇所は次のとおりです。

- ① 土地の取得に伴う貸方勘定を「未払費用」としている。
- ② 貸倒引当金の設定に際して、売掛金の回収を反映させていない。
- ③ 前払家賃の計算。

今後も精算表のみならず、企業活動の結果である財務諸表の作成についても理解を深めておいて欲しいと思います。